



きのこのインスリン分泌促進活性作用



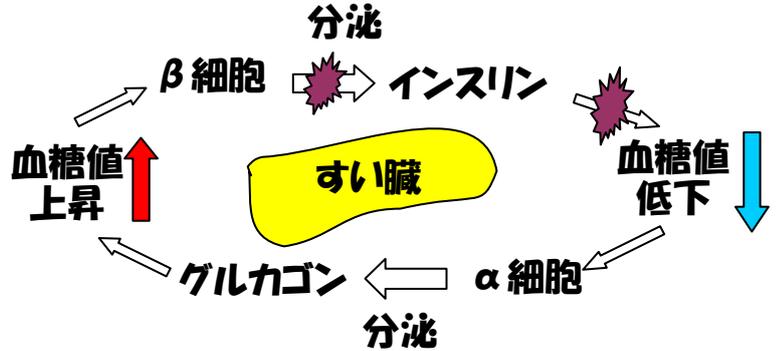
糖尿病の現状と治療について

日本において、生活習慣病の1つとされる糖尿病は、その予備軍も含めると2200万人を超えていると推測されています。糖尿病は、神経障害、網膜症、腎症などの合併症を引き起こし、さらに、高血圧や脂質異常症のある人が糖尿病になるとそれらの症状がさらに悪化します。日本では、よい生活習慣に関連する2型糖尿病が主流であり、その治療法として、直接的に効果を示すものではなく、運動療法、食事療法、インスリン注射や経口インスリン等の継続的な治療・投与が主流となっています。

糖尿病判断基準値

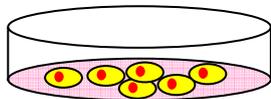
	空腹時血糖	75g糖負荷2時間後血糖値	随時血糖値
糖尿病型	≥ 126mg/dl	≥ 200mg/dl	≥ 200mg/dl
	上記の3項目の内、何れか1項目を満たす		
正常型	< 110mg/dl	< 140mg/dl	
	上記の2基準を共に満たす		
境界型	糖尿病型でも正常型でもないもの		

すい臓での血糖値調整



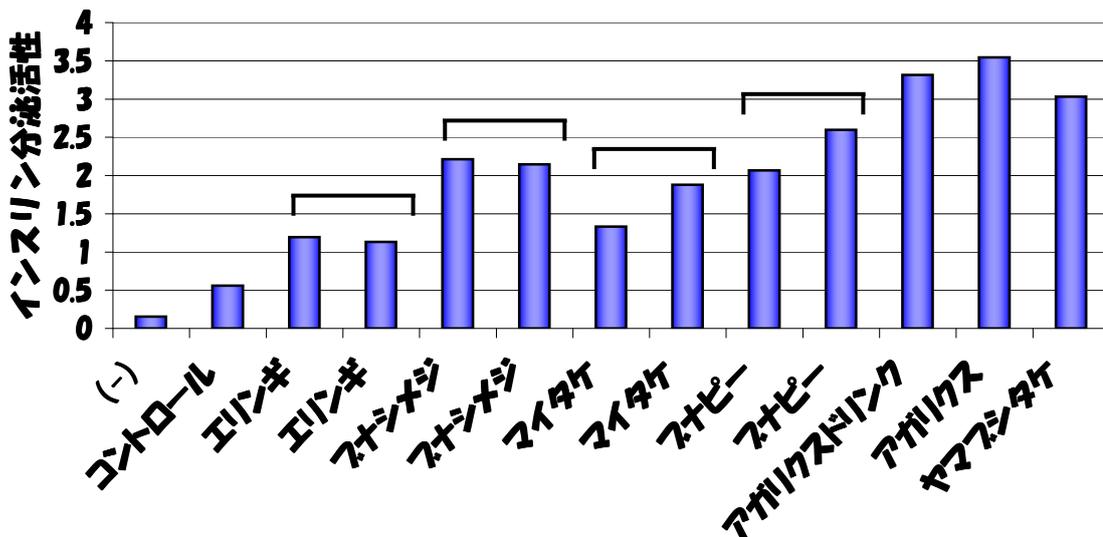
すい臓の組織にはα細胞とβ細胞が存在し、両者が血糖値を調整しています。2型糖尿病は、すい臓のβ細胞のインスリン分泌低下と、筋肉細胞などでのインスリン感受性の低下(インスリン抵抗性の増加)がその発症にかかわっています。

実験方法と結果



+ 各種きのこ熱水抽出物 → インスリン分泌活性測定

すい臓インスリン分泌β細胞株



(-)には何も加えていません。

コントロールにはインスリン分泌促進活性を示すアルギニン10mM、細胞に加えました。

きのこ熱水抽出物中に強力なインスリン分泌促進活性作用があることを見出しました。なかでも、フナシメジ、フナピー、アガリクス、ヤマシタケにおいて、高い効果を認めました。

試験の詳細は、日本きのこ学会第14回大会(2010年9月16-17日、東京)にて発表されました。

※無断での複製・転載・使用を固くお断り致します。



ホクト株式会社 本社〒381-8533 長野市南堀138-1 TEL: 026-243-3111(代表)